

美味しい食事と多様な出会いで 身体と心に栄養を

塾の空き教室でコンビニ弁当を食べたり、塾近くのファストフードで夕食を済ませたり……。そんな子どもたちを多く見てきた望月馨さんが今年3月に開設した塾「教養学舎」は「みんなで夕食を一緒にとることを基幹プログラム」とした。永年勤めた塾業界での経験と子育て経験から「今の子どもたちに必要なもの」かつ「働く母親のサポート」を実現できる塾だ。



知性創造学習塾
エコル・ア・パンセ 教養学舎
望月 馨 代表取締役

「教養」とは、未知の問題に対する 生きる力

望月さんが考える教養とは「未知の課題・解決困難な事象に対処するためにあらかじめ身につけておくべき素養全般のこと」だという。もちろん学業成績も教養の主要な一つで、それも重要ではあるけれど



絶対視はしていない。これから子どもたちが生きていく未来は、親世代の経験では対処できない社会課題が増えていく一方だ。にもかかわらず、昔以上に時代が必要とする生きるための知恵を「学ぶ」機会が減っているのが現状だ。望月さんがこの塾を「教養学舎」と名付けたのは、生きる力を身につける第三の学舎としたからだ。

生徒の自主性を尊重し、 自然と勉強したくなるような 仕かけを工夫する

教養学舎は教室内にチャワワーブースが設置されており、講師や生徒全員で夕食を食べるという一風変わったスタイルをとっている。対象年齢は10歳〜18歳。それぞれの学校が終わったあと、子どもたちは教室に集まり、食事の時間まで宿題や各自の勉強にそれぞれ取り組む。夕食は望月さんの友人でもあるプロの料理人が作ったものを教室で配膳。温かく、バランスの取れた美味しい食事はアルバイト講師の大学生やゲスト講師、そして生徒全員で食べるのが決まりだ。そこで話題に上るのは、最近学校や部活動であったことなどの身近なことから社会を騒がせる事件まで様々。ちょっとした家族のような雰囲気での食事風景だという。

夕食後は頭を柔軟に使うゲーム・パズルや、時事ネタを取り入れた会話を。勤務先の入学式を欠席し自分の子どもも入学式に出席した教諭の話題などを例に挙げ、賛成か反対か、その理由、また自分の意見

とは逆の意見の場合はどうか、いわゆるデイベートだ。単なる賛成・反対ではなく、会話を通じて、世の中にはいろいろな立場があるということを知って欲しいとの考えからだ。同塾が対象を10歳からとしているのは、抽象的な思考や抽象的な概念を理解し、ある程度大人の議論にも参加できるような年齢として設定しているためである。これらが終わると20時頃。小学生は帰宅の時間だが、中高生はその後、22時頃まで勉強をする。ただし、同塾では普通の意味で「勉強を教える」ことがあまりない。教え過ぎてしまうことが生徒のひ弱さを助長する、という「教え過ぎの弊害」を解消するためだ。この点には「何も教えない塾」と誤解される恐れもあるので、補足が必要だろう。

同塾では、受講教材をあえて固定せず、生徒本人がその日その時間に勉強しようとする決めることを尊重しようというスタンス。

無理なく自分で勉強する姿勢が身に付くよう、基本線では生徒の自主性を尊重するが、新しい単元に入るタイミングやレベルを常時見計らい、個別に具体的な指示を出す。

好んで勉強する教科が偏りがちな場合にはその是正をするなど、全体的なフォローも忘れない。

「つい解法を教えたくなくなるのをぐっとこらえて、日々接していきます。新しい単元に進む時は、内容を教えるというよりその単元の位置づけを解説した上で、解法を教えるというより単元ごとの学びのコツを教える感じです」とのことだ。

生徒からの質問に対しては即答するのではなく、「どうしてそこでそのように考えたの?」その公式はどういう場合に使うものだったの?」そもそもその言葉は何という品詞なの?」その品詞をそのように使うものなの?」など外堀を埋めるような質問を連発し、生徒自身が矛盾に気づくように誘導する。

望月さんは、生徒のやる気の大きさは、自力で克服できたときの喜びの体験回数と比例すると考えており、生徒に成功体験を与えることが肝要だという。名古屋市内有数の中高一貫校に通い部活動に明け暮れる高校1年のK君から、通塾2カ月で定期テストのクラス順位が20位ほど上昇したという最新報告があった。彼のお母さんによれば「最

近の彼は、勉強面で自信がついて安心感が生まれたためか、全国大会出場に向けてますます部活に燃えています」とのことだ。



ゲスト講師を迎えるのが 最大の特長

大学生のアルバイト講師以外に、ゲスト講師を迎えるというのも同塾の特長。ゲスト講師は様々な分野で活躍している大人で、望月さんの同窓生や教え子を中心にお願いしているという。医師や国際協力に尽

力している方やマラソンに打ち込んでいる方など、様々な経歴を持つ方に子どもたちと接してもらい、直接話をしてもらっているとのことだ。学校等で、講演会の形で話を聞くという機会はあるだろうが、直接対話できる場というのはなかなかない。それを繰り返していくうちに喋るのが好きになり、年上の人に対しても臆せず自分の意見を言えるようになるという。

子どもたちにとって母国語の言語能力を高めることは思考力やコミュニケーション能力に直結する。高いコミュニケーション能力が求められる世の中だが、それを高めるための指導は難しい。それが自然に身に付く環境がここには用意されている。

また、早くからたくさんの大人に関わることは子どもが将来を考える上で非常に大切な役割を持つ。将来なりたい人物像や、やりたい仕事をどのように見つけるのか? それにはいろいろな人に会うのが一番だからだ。世の中にいろいろな職業の方、いろいろな志向の方がいると知ってもらい、実感してもらおうこと。それが一番なのだ。

同塾での目標は「議論できる思考力を養う」こと。「グローバルゼーション」というと英語だけが重要であるかのように勘違いされがちだが、そうではない。英語はあくまでも意思伝達の手段であり、それが主にはならない。相手の意見を聞き、相手を理解し、自分の意見をキチンと伝えることが何より重要だ。そのため、自分が好きなことや自分の専門分野、社会についての考えなどをまずは日本語でしっかり伝えられるようにすること。そして、世界中の人がより良く生きるためのアイデアを英語でも堂々と発信できる人間を育成することが同塾の究極の使命である。

【塾データ】

株式会社 教養学舎

〒466-0851

愛知県名古屋市昭和区元宮町4丁目5番地

コミュニティ サカキ

電話/FAX 052-734-3329

http://kyoyogakusha.jp/